

本多延嘉追悼50年の集いに際して(上)

破防法弾圧うち破った闘い受け継ぐ

1975年3月14日 本多延嘉追悼集に在る場所・信条を超え長がカクマルによる謀略的で卑劣な手段によって暗殺されてから50年がたつ。

当初革共同は毎年3月14日を復讐の日として追悼の政治集会を開催してきた。しかしそれも時間がたつにつれ忘却され、今年50年というのに革共同全国委(『前進』派)は、今日に至るも何一つ集会開催の意向を示さない。

そんな折、昨年末から『50年追悼の集い』計画が、毎年集参をしてきた人々の中から計画され、関西を主戦場としていたためこの種の行動に取り組めてこなかった我々は、この企画に大いに期待し実行委員会に参加させて頂いた。3月15日の集いには多くの人が参加すると聞き、心から喜んでる。

呼びかけ文には本多さんを追悼するにあたって、我々が受け継ぐべきものは何だろうか。膨大な著作・政治的事業を受け継ぐには何万字書いてはびこっている。その官歴主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

見主義集団・黒田寛一らは脱走する。その後革命的統一戦線のもと、66年3回大会―70年安保・沖縄闘争を牽引し、今日に引き継がれる革命的共産主義運動の基本的道筋を確立したのだ。

それ以降の過程で、本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

また1967年社青同解放派や1984年第4回インターナショナル日本支部に対する暴力行使は、闘う勢力内部に断絶と分裂を生んだ。反省と克服に努力を、安倍・岸田を引き継ぐ、石破政権と対峙して闘うことである。

1991年の5月同時に新自由主義の破綻が生み出す労働者人々の困窮と危機に對して付した。1990年闘いの芽を育て、闘う革共同は、ともすれば、安保・沖縄闘争を全人的政治闘争として闘うことから逃れ、また地域から、階級闘争と階級形成を一個二組合をつくる」ことに注力した。いまは逆に「職場闘争」、「労働組合」の闘いを否定し、対立させて、「反戦闘争」を外から持ち込むことに注力している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

可欠である。また運動組織論においても「民主集中」といいながら「中央絶対」という官僚主義組織はいまだら「中央絶対」という本多さん自身「闘いつつ学び、学びつつ闘い」を破防法弾圧をうち破ってけん引した。「70年への道(68年4月)で、大闘争、沖縄闘争など戦闘の大衆闘争に心を寄せながら、かつ「党としての闘いと党の闘い」を提起した。71年12・4反革命以降カクマルとの内戦に入るが、それでも「政治優位」の原則を貫き、遺作となった「革命闘争と革命党の事業の堅実な発展のため」に『前進』646号論文(73年8月)を発表している。

本多延嘉追悼50年の集い 集会要項

日時 2025年3月15日(土) 午後2時~4時半
(午後1時開場)

場所 連合会館(総評会館)402会議室

資料代 1,000円

懇親会 別会場で4,000円の予定

連合会館
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11
TEL: 03-3253-1771 http://rengokaikan.jp

『未来』編集委でも参加募ります

冬期カンパへのご協力

ありがとうございます

革命的共産主義者同盟再建協議会

本多延嘉追悼50年の集いに際して(下)

破防法弾圧うち破った闘い受け継ぐ

大久保 一彦
『未来』編集長

本多延嘉書記長の政治的業績については著安田啓政防を闘い、70年日米安保の改定を阻止するため「反日共各派」が沖繩・大学を主戦場に統一行動を強めるために各派責任者が一堂に会して徹底討論を14時間やった。その後3月には5派共同声明が出され、4・28を前に30団体共同声明となり、本多さんは4・28闘争の前夜、破壊活動防止法の適用で事前拘束され、その後2年弱獄中生活をおくる。この共同行動の討論には、中核・フロント・M1とは少し潮流が違うが、思想に対する厳格さと階級に対する信頼はあっても、党は絶対とはしなかったことが随所に現れている。

破防法がかけられた69年4・28闘争は歴史的分岐点となり、その後フロントの中に軍事路線を志向する赤軍派が生まれ、また「左に流れる共産党」やフロントも党内闘争を展開しながら左傾化・分裂していく。また革共同は対カクマル戦に突入し、討論の4人の指導者もそれぞれ数奇な運命をたどる。聞くところによると、フロントのさらぎ議長はこの討論の意義を高く評価し、71年8月の本多さんの結婚式に参加した交誼をあととまで語っていたという。意見は違えど、共同討論に至る準備過程も含め共同討議を積み上げていく作風は極めて大切であると考えられる。

歴史に対する

該博な知識

1967年2月11日、戦前の紀元節を引

き継ぎ「建国記念日」が創設された。当時田舎の高校1年生で新聞部に属していた筆者は、この暴挙に対して論考を初めて書いた。16歳の歴史好きの少年が岩波新書などを読み、寄せ集めの知識でいっばしの「論文」を書いてみたのだ。しかして後々になって考えるにこの日は歴史の転換点で、本多さんはこの日を「亡国の記念日」と捉えることを彼の政治主張の中に据えている。のちにこのことを知った筆者は「同じ思想」を感じたものだ。

それは「来る人は拒ましても除名はしなかつ、去る人は追わず」た本多さんのありようの精神で、政治局員のだ。このことを誓い50戦線離脱を厳しく批判年の言葉とする。

訂正

前号5段18行目、「党としての闘いと党の闘い」は「党のための闘い」に訂正します。

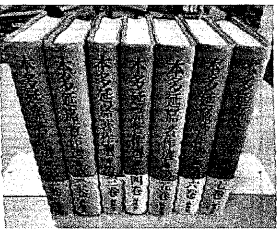
「70年をどうする」は、70年安保闘争の幕あけとしての1969年の4・28闘争を前にして「反日共系革命諸派の思想と戦略」を、本多延嘉(革共同書記長)、いいたも(共産党書記長)、さらぎ徳二(共産同盟議長)、鈴木迪夫(M1同盟議長)、水戸巖(核物理学者)、小長井良浩(弁護士)らが、文字通り「70年をどうする」を巡って激しく議論した

早稲田大国際学科に在学した本多さんは革命運動全般の指導の中で民衆がどのよう

70年時は「真つ赤な太陽」そして「人生一路」に、絶えず日本の歴史の中で民衆がどのよう

に歩んできたか、それを70年当時の革命運動でどうとらえ返すべきかという考えがあったと思う。維新の西郷隆盛像や明治の自由民権運動を独特の観点から捉えた。「天皇制ボナパルティズム」論以外には歴史学者的な論文を書くことはなかったが、歴史に対する該博な知識からくる卓見と弁証法的思考は、運動指導上での人物評価として、論文以上の見識を示し人々に示唆を与えたと思ふ。

小嵐九郎の著作の最後に、「演歌、とりわけ美空ひばりが好きで」学習会の途中でひばりの声が流れると「天下の大歌手の歌だ、聞いて敬意を表そう」と中断したとある。ひばりは敗戦直後の日本の復興のシンボルとしてアギの笠木シズ子を超え国民的歌手となった。当時は「悲しい酒」と「リンゴ追分」



本多延嘉著作選全7巻『未来』編集部でも扱います

本多延嘉著作選全7巻『未来』編集部でも扱います

展望 -The Perspective-

最新号 第32号

2025年 巻頭アピール 世界的激動の中、石破政権を打倒しよう

- *新しい共産主義のために塩川三十二
- *万博破産・女性差別・兵庫斎藤問題
一結党以来最大の危機に直面した維新剛田 力
- *被爆80年 広島・長崎の原爆被害者とその闘い高田 壘
- *投稿：沖縄現地報告 12・22県民大会島袋利久
- *沖縄日誌 2024年3月～9月東江 明
- *9月・11月 西日本反基地交流会津田保夫
- *うち続く女性差別と女性解放の課題岡田恵子
- *書評：駒込武・編著『台湾と沖縄』島袋純二

(革命的共産主義者同盟再建協議会 理論機関誌)
2025年4月 定価(本体1000円+税) Amazonでも購入可 / 「展望32号」で検索

展望 -The Perspective-

発売中! 第31号

- *新安保・沖縄闘争の爆発を
- *綱領的世界認識のために
- *投稿：沖縄現地報告
- *万博・カジノを止め
維新政治に終止符を
- *新しい社会主義めざして
=斎藤幸平と格闘
- *映画『ゲバルトの杜』批判

(革命的共産主義者同盟再建協議会 理論機関誌)
2024年7月 定価(本体1000円+税) Amazonでも購入可 / 「展望31号」で検索

闘争案内

関電は約束もれ! 美浜集会
とき: 3月31日(月) 午後1時
※集会後、町内デモ

ところ: 関電原子力事業本部前
(福井県美浜町・JR美浜駅から徒歩3分)
主催: 老朽原発うごかすな! 実行委員会

「東大阪でヘイト問題を考える」スタートアップの集い&映画「もつと真ん中で」上映会
とき: 4月5日(土) 午後1時
ところ: 東大阪文化創造館 創造支援室C
主催: 東大阪でヘイト問題を考える会
連絡先: 090-3656-7409

使用済み核燃料再処理の闘
田窪雅文(核情報主宰)

「使用済み核燃料と再処理」
大島秀利(毎日新聞専門編集委員)

「壮大なムタ使い核燃料サイクルの総事業費」
とき: 4月19日(土) 午後1時45分
ところ: 国労大阪会館・3F大会議室
主催: 脱原発政策実現ネットワーク関西・福井ブロッコ

チェルノブイリ原発事故39年の集い
〜被爆80年 戦争も核もいらない!〜
とき: 4月20日(日) 午後1時半〜4時半
ところ: 大阪市立総合生涯学習センター5F第1研修室
主催: チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

展望 -The Perspective-

発売中! 第31号

2025年 巻頭アピール 世界的激動の中、石破政権を打倒しよう

- *新しい共産主義のために塩川三十二
- *万博破産・女性差別・兵庫斎藤問題
一結党以来最大の危機に直面した維新剛田 力
- *被爆80年 広島・長崎の原爆被害者とその闘い高田 壘
- *投稿：沖縄現地報告 12・22県民大会島袋利久
- *沖縄日誌 2024年3月～9月東江 明
- *9月・11月 西日本反基地交流会津田保夫
- *うち続く女性差別と女性解放の課題岡田恵子
- *書評：駒込武・編著『台湾と沖縄』島袋純二

(革命的共産主義者同盟再建協議会 理論機関誌)
2025年4月 定価(本体1000円+税) Amazonでも購入可 / 「展望32号」で検索